生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

ベースライン調査報告書

Global Bridge Network (GBN)
&
SORAK Development Agency (SORAK)

2021年12月

注：ウェブサイト掲載用に３．ベースライン調査の結果までを抜粋しています。

調査対象地：

- **MUBENDE DISTRICT:** KIBALINGA, NABINGOOLA & KIGANDO SUBCOUNTIES
- **WAKIS ODISTRICT:** NANSANA MUNICIPALITY, NABWERU & GOMBE DIVISION
- **BUTAMBALA DISTRICT:** GOMBE TOWN COUNCIL, NGANDO SUBCOUNTY & BULO SUBCOUNTY

【目 次】

略語のリスト 3
1 導入と背景 4
1.1 導入 4
1.2 ベースライン調査 4
1.2.1 ベースライン調査の目的 4
1.2.2 回答者の年齢層 4
2 ベースラインの調査方法と取り組み方 5
2.1 ベースライン調査に用いた方法 5
2.1.1 定性的方法 5
2.1.2 定量的方法 5
2.2 データ分析の方法 5
2.3 選抜した対象校 5
2.4 調査における制限 6
3 ベースライン調査の結果 6
3.1 女子生徒に対するアンケート 6
3.1.1 回答者の基礎情報 6
3.1.2 月経についての経験 7
3.1.3 月経についての認識 8
3.1.4 月経時の衛生管理と生理用布ナプキン使用についての知識 11
3.1.5 月経中の通学への不安 16
3.1.6 月経による就学率への影響 18
3.1.7 その他の結果 19
3.2 女子生徒に対するアンケート結果のまとめ 19
4 グループディスカッション（FGD)・インタビュー(KII)の対象人数 21
4.1 生徒（女子・男子）へのグループディスカッション（FDG）・インタビュー（KII） 21
4.1.1 女子生徒 21
4.1.2 男子生徒 23
4.2 グループディスカッション（FGD) 25
4.2.1 コミュニティ 25
4.3 インタビュー（KIIs） 27
4.3.1 教員 27
4.3.2 各県の政府関係者 31
4.3.3 地域の指導者 34
4.3.4 保護者・学校運営委員の意見 36
5 学校施設の確認：対象校における月経衛生管理に関連した水と衛生の現状調査 36
5.1 概要 36
5. 2 トイレ施設 37
5.3 洗面所 39
5.4 更衣室 41
5. 5 水の供給源 41
6 結論および提案 44
7 別添書類：データ収集ツール 47
7.1 女子生徒へのアンケート票 47
7.2 主要関係者へのインタビュー（KII)の質問事項 51
7.3 グループディスカッション（FGD）の質問事項 52
7.4 3 県の対象校 30 校の施設チェックリスト 53

略語のリスト

CAO	Chief Administrative Officer
CAWODISA	Children and Women of Disabled Soldiers Association
DEO	District Education Officer
DIS	District Inspector of Schools
FGD	Focus Group Discussion
KIIs	Key informant interviews
MEO	Municipal Education Officer
MHM	Menstrual Hygiene Management
PTA	Parents Teachers Association
PWDs	Persons with Disabilities
SMC	School Management Committee
SORAK	Strategic Organization for Real Action-Kampala
WASH	Water, Sanitation and Hygiene

1 導入と背景

1.1 導入

月経時の衛生管理の課題に取り組み、女子生徒の教育環境改善を目指す事業の実施に向けて、以下の対象地域にて実施したベースライン調査の結果を報告する。

- ムベンデ県：チバリンガ準郡、ナビンゴーラ準郡、チガンド準郡
- ワキソ県：ナブウェル、ゴンベ、ナンサナ市、
- ブタンバラ県：ゴンベ町、ンガンド準郡、ブロ準郡

ベースライン調査はSORAKにより2021年11月～12月にウガンダのムベンデ県、ワキソ県、ブタンバラ県の３県の各準郡において実施した。本調査は生徒達が月経時の衛生管理の問題をきちんと把握しているか、2019年～2021年の在籍者名簿を元に月経の衛生管理に関連した問題により女子生徒がどれだけ退学したか、更に水と衛生に関して、アクセスできるか、妥当性、可用性、プライバシーの視点から学校設備が十分備わっているのか、状況を確認した。

国連によって定義されている月経時の衛生管理とは、女性が経血漏れを防ぐ吸収力のある清潔なナプキンを使用し、プライバシーを保った状態で必要に応じて交換でき、また水、石鹸、使い捨てナプキンに適切にアクセスできることである。布ナプキンであればきちんと洗浄し、太陽光の下で乾燥させる必要がある上、４時間毎のナプキン交換や、使用済みナプキンを触った後に手を洗うなどの衛生管理が正しく行われなければ尿路感染症などを引き起こす可能性が増加する。

衛生管理が不十分であると真菌感染症や生殖器系の細菌感染、また不快な肌のかゆみ、腫れや赤み、水ぶくれなどの皮膚炎を引き起こす原因となりかねない。更にこれを放置することで毒素性ショック症候群や他の膣感染症など、どれも思春期の生徒たちにとっては学校の出席への障壁となってしまう症状を引き起こす。

1.2 ベースライン調査

1.2.1 ベースライン調査の目的

事業終了までの期間、プロジェクトの達成度の測定やレビューをする際に活用する事業の評価基準（ベンチマーク）設定など、以下を主な目的としてベースライン調査を実施した。

i) 情報収集を通して現存する問題を理解し、事業の進捗状況、すなわちプロジェクト実施中に起こる変化の質や度合いを把握する際の基準を設けられるようにするため。

ii) プロジェクトの達成状況及び成果の判断をできるように、重要な情報を事業の早い段階で取得するため。

iii) 今後の活動における評価基準として、またプロジェクトマネージャーがプロジェクト管理において判断を下す際の参照資料として活用するため。

1.2.2 回答者の年齢層

各対象校の4年生～7年生（12歳～17歳）の男女両方の生徒を対象にインタビューを行ったが、アンケートに関しては月経を経験したことのある女子生徒のみを対象にした。また政府関係者、学校運営委員、コミュニティメンバー（県教育委員・県調査員・市教育委員・PTA・校長・女性教員・保護者）に対しそれぞれインタビューを行った。

2　ベースラインの調査方法と取り組み方

2.1 ベースライン調査に用いた方法

定性的及び定量的な方法を用いてデータを収集し、各県（3 県）から 5 校ずつ、合計 15 校を対象にベースライン調査を行った

2.1.1　定性的方法

i)　グループディスカッション

男女両方の生徒とコミュニティメンバーからデータを得る手段としてグループディスカッションを行った。ディスカッションから得られた情報はテーマ別に記載している。

ii)　インタビュー

役割、年功、月経時の衛生管理における技術的な知識や専門性を基に選抜された学校教員、政府関係者、コミュニティの指導者へのインタビューを実施した。

iii)　設備の視察

各県内の全ての対象校（30校）において衛生施設の視察を通して現況を把握し、データを収集した。

2.1.2　定量的方法

月経の衛生管理に関する知識を測る方法として、月経を経験した女子生徒 153 名を対象にオンラインアンケートを実施した。

2.2 データ分析の方法

ベースラインの定量データは STATA 統計解析ソフトを用いて表を作成、その後 Excel で結果の視覚化を図り解析をした。一方で定性データはテーマ別に分析した。

2.3 選抜した対象校

■　**ムベンデ県**
＜チバリンガ準郡/ Kibalinga sub-county＞
1-Christ the King Primary School
2-Kabowa Primary school
3-Kasaana Church of Uganda
4-CAWODISA Primary School
＜チガンド準郡/ Kigando sub-county＞
5-Katega Primary School
6-Dyangoma Primary School
7-Ikula Primary School
＜ナビンゴーラ準郡/ Nabingoola sub-county＞
8-Kiyita Primary School
9-Kassasa Primary School
10- St Marys Gwanika primary school
■　**ワキソ県**

<ゴンベ/Gombe Divison>
1-Lwadda Church of Uganda Primary School*
2-Kitanda Church of Uganda Primary School
3-Ssanga Church of Uganda Primary School
4-Buwambo Church of Uganda Primary School
5-Kirolo UMEA Primary Schools
6-Kigoogwa Moslem Primary School
7-Kitungwa Church of Uganda Primary School
<ナブウェル/ Nabweru Division>
8-Maganjo UMEA Primary School
9-Jinja Karoli Primary School
10-Kanyange Mixed Primary school
■ ブタンバラ県
<ンガンド準郡/Ngando sub-county> >
1-Butalunga Catholic School
2-Butende UMEA
3-Kitagobwa Catholic School
4-Lwamasaka UMEA
5-Kiwala UMEA
<ブロ準郡/ Bulo sub-county>
6-Nkokoma Catholic School
7-Nawango Church of Uganda
8-Bule UMEA（Bulo sub-county)
<ゴンベ町/Gombe Town Council>
9-Ntolomwe UMEA
10-Kayenje Catholic School

2.4 調査における制限

i) 新型コロナウィルス感染症の影響を受け、人々との交流が制限された。これはリサーチチーム及び調査対象者をウイルスから守るためにも保健省が発したStandard Operating Procedures（SOPs）（標準作業手順書）に従ったためである。

ii) 新型コロナウィルス感染症のため多くの学校が閉鎖しており、学校環境の中で生徒と接触することが困難となった。また、学校の在籍者名簿が更新されていない学校もあった。

3 ベースライン調査の結果

3.1 女子生徒に対するアンケート

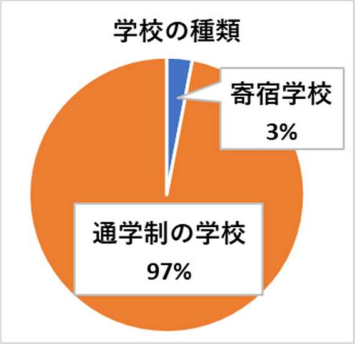
3.1.1 回答者の基礎情報

Table 1: アンケートの対象人数

県	学校名	回答者 （10歳－17歳）	小計	合計
ムベンデ	5校（Kasana CU, Christ the King, Ikula, Kasasa, CAWODISA)	女子生徒10名	50	153
ワキソ	5校（Jinja Karoli, Manganjo UMEA, Ssanga, Kitungwa, Buwambo)	女子生徒10名	53	
ブタンバラ	5校（Kiwala, Nkokoma, Kitagobwa Catholic, Lwamasaka UMEA, Ntolomwe UMEA)	女子生徒10名	50	

◆ **学校の種類**

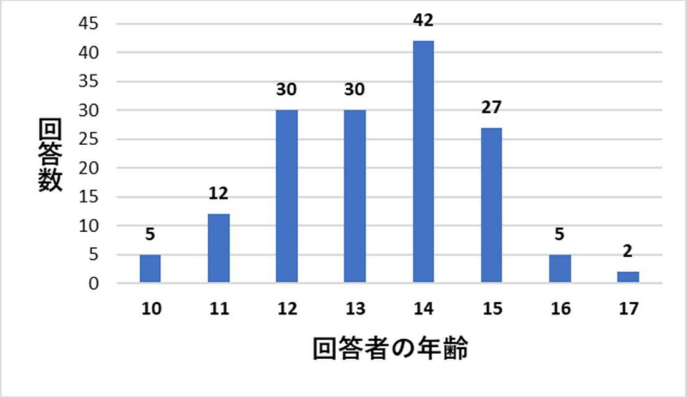
Figure 1: 学校の種類（回答者：153名）



回答者のうち97%が通学であり、３%は寮に入っている。Jinja Karoli初等学校は通学と寮の両方の生徒がいる。

◆ **回答者の年齢**

Figure 2: 回答者の年齢（回答者：153名）



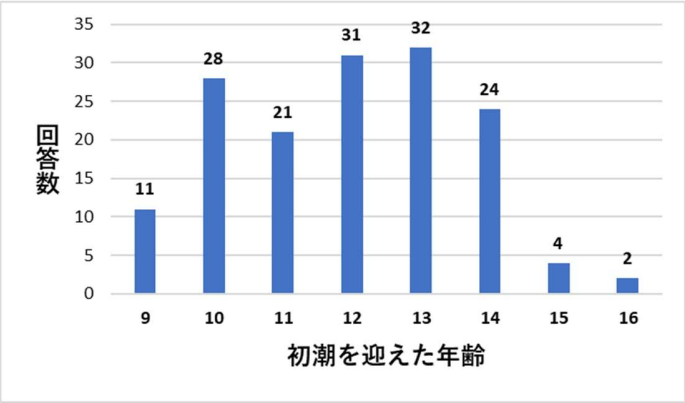
アンケートに回答した女子生徒は10歳から17歳であり、一番多い回答者は14歳であった。

3.1.2 月経についての経験

回答者は月経を経験済みの女子生徒である。

◆ **初潮の年齢**

Figure 3: 初潮を迎えた年齢 （回答者：153名）

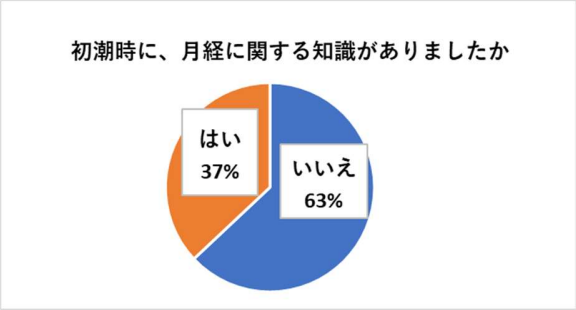


初めて月経を経験した平均年齢は12歳である。ほとんどの回答者は10歳～13歳で初潮を迎えているが、早くて9歳、遅くて16歳である。

3.1.3 月経についての認識

◆ 初潮の時の認識について

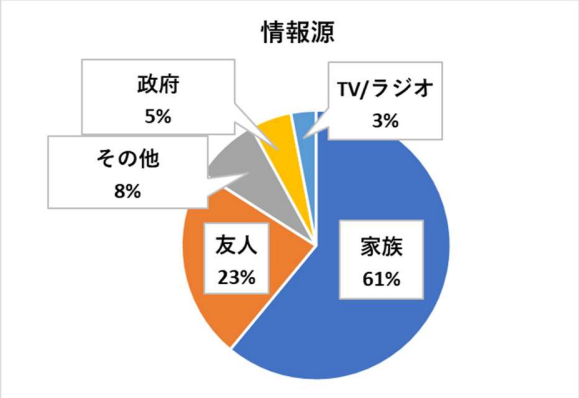
Figure 4: 初潮を迎えた時に月経について知っていたか。（回答者：153名）



63%（96名）の回答者は初めて初潮を迎えた時に月経についての知識がなかったと回答した。これは月経時の衛生管理が学校で重要視されていないという事実に起因する。上級生（16～17歳）になると科学の授業でリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）を扱い、そこで月経について教わる。

◆ 初潮時の月経に関する情報源

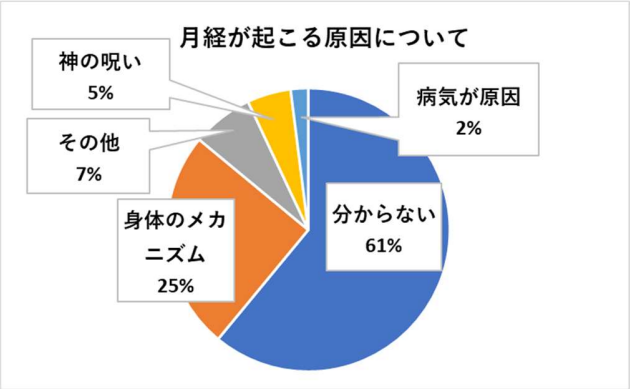
Figure 5: 情報源は何か (回答者：上の質問で月経に関する知識があったと答えた57名)



初潮を迎えたときに月経に関する知識があった生徒のうち61%（35名）の回答者は、母や祖母、叔母などの親戚を通して情報を得ていた。また、友人という回答も多かった。

なぜ月経が起きるのかについての知識

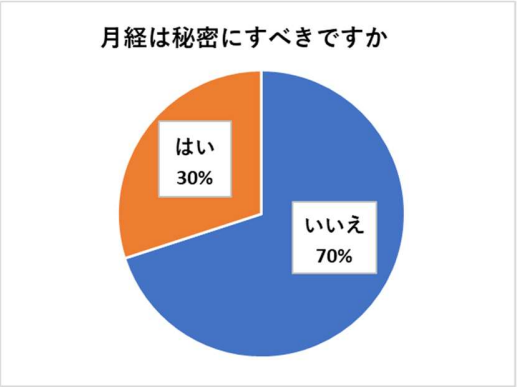
Figure 6: なぜ月経が起きるか （回答者：153名）



61%（93名）の回答者はなぜ月経が起きるのかを知らないと回答した。５％（8名）は神に与えられたと信じており、２％（3名）は病気だと回答した。この回答の原因は、上級生になるまで月経時の衛生管理について教わらず、また何の方針もないためと思われる。

◆ 月経は秘密事か

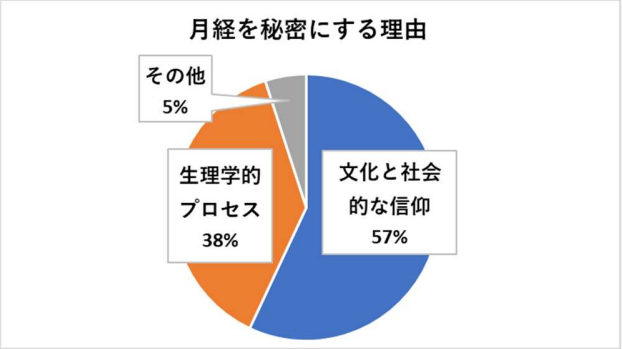
Figure7: 月経を秘密にするか (回答者：153名)



70%（96名）の回答者は月経について自由に会話するが、30%（57名）は秘密事とみなされると回答した。

◆ 月経は秘密事である理由

Figure 8: なぜ月経は秘密なのか（回答者：上記で月経を秘密にすべきと回答した生徒57名）

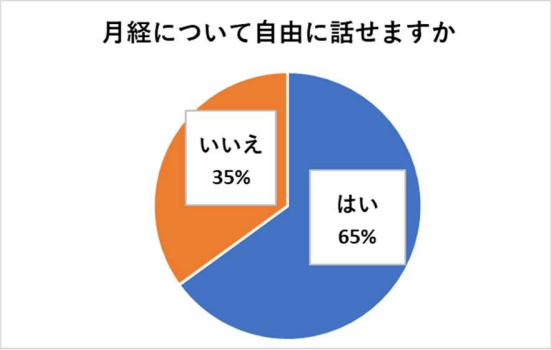


なぜ月経を秘密とするのかという質問について、女性特有のことなので口外するのは適切ではないということが述べられ

ている。57%（32名）の回答者は、月経は秘密事であるという社会の文化や信条があると回答、また他の回答では宗教のため、あるいは月経になったかどうかを知らない男性と月経について話すことは不快で恥ずかしいという回答があった。また、特に初潮を経験した女子生徒は知られるのを不安に思うと述べた。

◆ 月経の問題について自由な議論

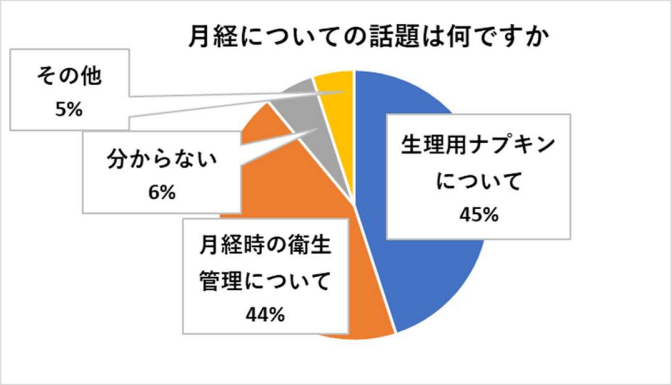
Figure 9: 月経について自由に話せるか（回答者153名）



月経について自由に話せるかという質問について、65%（99名）の回答者は女子生徒同士あるいは母親、叔母などと月経について自由に会話ができるが、父親とは恥ずかしいと感じている。一方で35%（54名）の回答者は自由に会話できないと回答している。

◆ 月経の問題についての話題

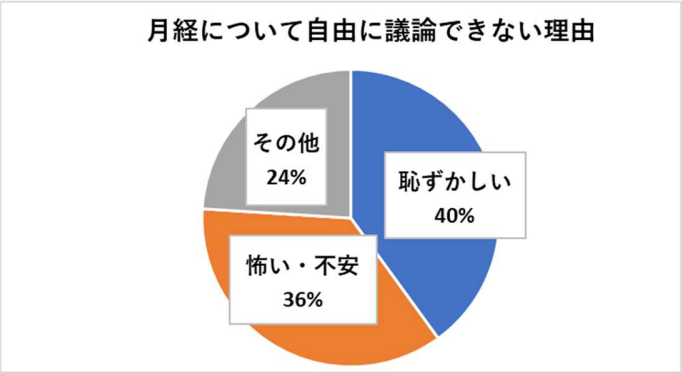
◆ Figure 10: 月経についての話題は何か（回答者：上記ではいと回答した生徒99名）



回答者の45%（44名）は月経に関して議論するのは生理用ナプキンについて、44%（43名）は月経時の衛生管理についてである。その他、月経中の過ごし方、月経中に起こる腹痛などの症状と対処などが話題となると回答した。

◆ 自由に議論できない理由

Figure 11: 月経について自由に議論できない理由（回答者：上記でいいえと回答した生徒54名）

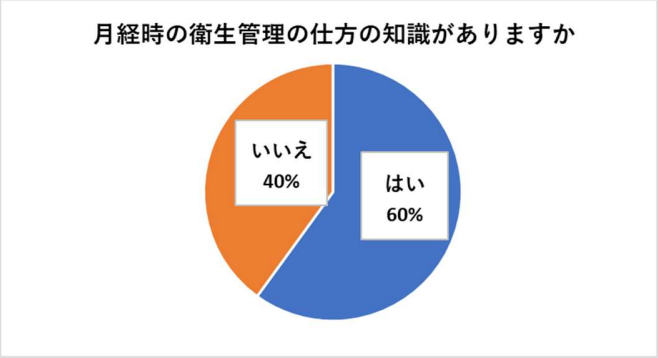


回答者の40%（22名）はオープンに話すことが恥ずかしく、加えて保護者から月経は内密にすることであると教えられたと回答した。36%（19名）の回答者は特に男子にからかわれるのが不安であり、24%（13名）は彼女達の秘密事項であるとの回答であった。

3.1.4 月経時の衛生管理と生理用布ナプキン使用についての知識

◆ 月経時の衛生管理の仕方についての認識

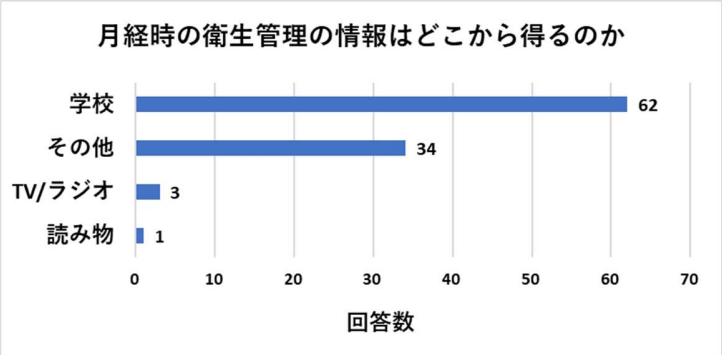
Figure 12: 月経時の衛生管理の仕方の知識があるか（回答者153名）



60%（92名）の回答者がどのように月経時の衛生管理をするかについて知っており、母親や女性教員から教わったと回答した。女性教員は、上級生を対象にグループや個別のカウンセリング、ガイダンスを通して月経が始まった女子生徒のケアをしている。また、40%（61名）は月経時の衛生管理を知らないと回答した。

◆ 月経時の衛生管理の情報源

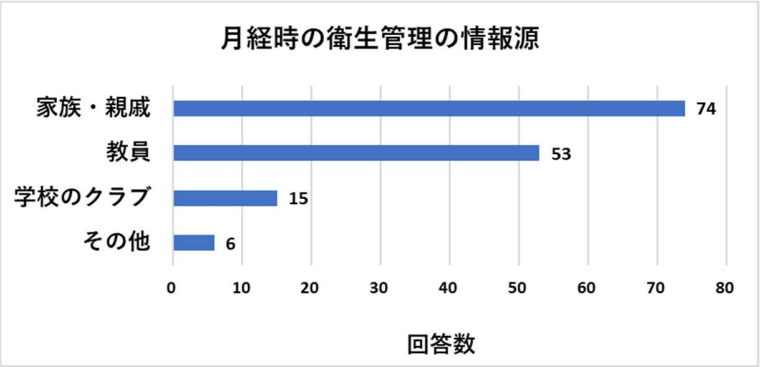
Figure 13: 月経時の衛生管理の情報はどこから得るのか（回答者：上記ではいと回答した生徒92名、複数選択可）



67%（62名）が学校にて友人や女性教員、科学の教員から知識を得たと回答した。一方で家庭の両親や姉妹、親戚から知識を得たと回答した生徒もいる。

◆ 誰が月経時の衛生管理における情報を提供したか。

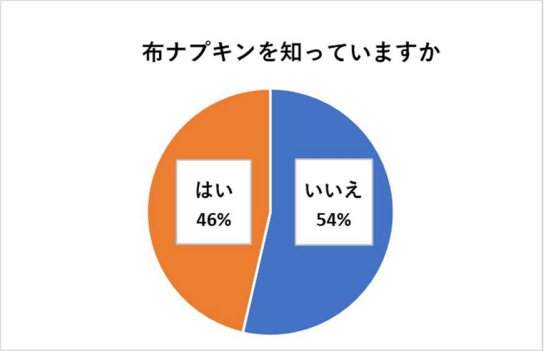
Figure 14: 月経時の衛生管理の情報源（回答者：上記で月経時の衛生管理を知っていると回答した生徒92名、複数選択可）



月経時の衛生管理の知識に関する主な情報源は家族と回答した生徒が74名（80%）、学校の先生からと回答した生徒が53名（58%）であった。

◆ 再利用できる布ナプキンについての知識

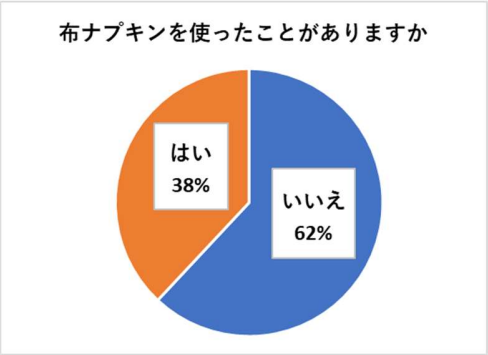
Figure 15: 布ナプキンの使用についての知識（回答者：153名）



54%（82名）の回答者は再利用できる布ナプキンについての知識がないと回答。一方で46%（71名）の回答者は知っていると回答した。

◆ 再利用できる布ナプキンの使用

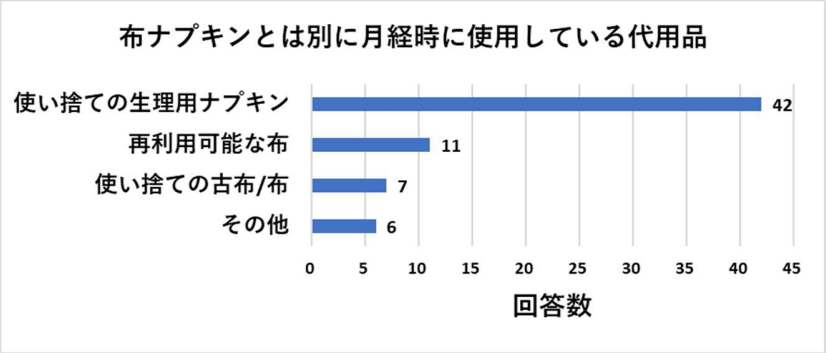
Figure 16: 布ナプキンを使っている生徒（回答者：上記で布ナプキンについての知識があると回答した生徒71名）



62%（44名）の回答者は布ナプキンを使用せず使い捨てナプキン、もしくは再利用できる衣類や処分する古着を使用していると回答した。38%（27名）の回答者は布ナプキンを使用したことがあると回答した。すなわち、本調査の回答者全体153名のうち27名（17.6%）の女子生徒が布ナプキンを使用したことがあるという結果である。

◆ 布ナプキン以外の生理用品の使用について

Figure 17: 布ナプキン以外に月経時に使用している代用品（回答者：上記で布ナプキンを使用していないと回答した生徒44名、複数回答可）

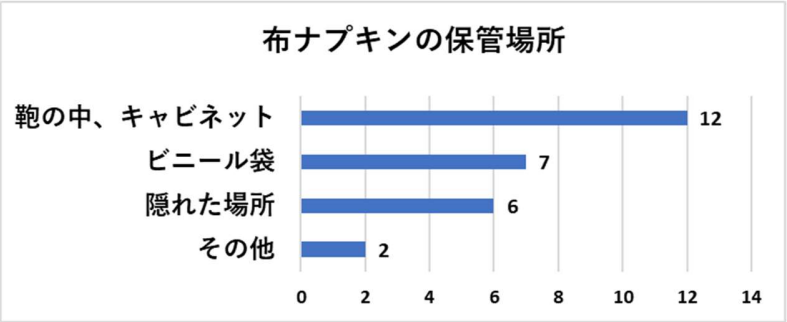


使い捨てナプキンと答えた生徒が42名、それ以外で多く使われる生理用品は洗える衣類であると回答した（11名）。ほとんどの生徒の両親は使い捨てナプキンを毎月買う余裕はなく、また他の生徒は古着、ティッシュやコットンを使用していると回答した。その他の用品として、石鹸、水、救急用の下着、制服、痛み止め等を使用すると回答した。
多くの回答者（42名）は使い捨てナプキンを使っていると報告したが、恐らく以下の理由により常に使っているわけではないと推測する。

1．多くの学校は過疎地にあるので市販の使い捨てナプキンをすぐに購入できる環境ではない。
2．コロナ禍の影響により貧困家庭の経済状況は悪化しており、使い捨てナプキンを買う余裕はないので、母親たちが慣習的に使用していた古着で代用している。

◆ 使用後の布ナプキンの置き場所

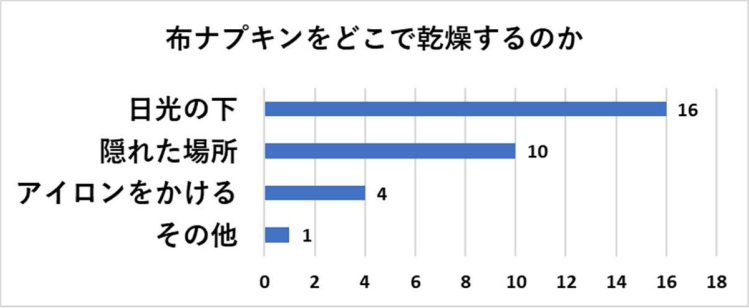
Figure 18: 布ナプキンの使用後の様々な保管方法（回答者：上記で布ナプキンを使用していると回答した生徒27名、複数回答可）



布ナプキンを使う回答者の多くはナプキンをバックにしまったり、ビニール袋にいれたり、キャビネットに保管したり、隠れた場所やトイレに置いたりする。適切な使用法や洗い方、また廃棄の仕方について女子生徒達を教育する必要がある。

◆ 布ナプキンや下着を乾燥する場所

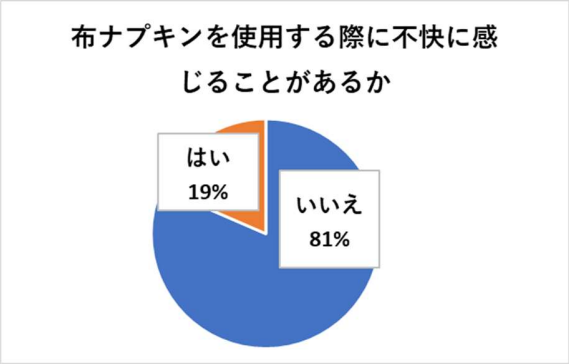
Figure 19: 布ナプキンをどこで乾燥するのか（回答者：上記で布ナプキンを使用していると回答した生徒27名、複数回答可）



布ナプキンを使用している回答者のほとんどは通学している生徒なので、自宅にいるときにナプキンを洗濯し、太陽の下で干すと回答した。太陽熱は自然の殺菌作用があるため、太陽で布ナプキンを乾かすことで殺菌でき、次に使用するために備えられる。布ナプキンは再利用できるという点で経済的である上、簡単に利用でき、また環境にやさしいが、雑菌を防ぐためには次に使用するまで清潔で乾燥した場所に保管する必要がある。他には、男性や他の人たちに見られるべきではないという文化的信念のため、布ナプキンを隠して乾かすとの回答や、アイロンをかけて乾かすと回答した者もいた。

◆ 布ナプキンに関する不快感

Figure 20: 布ナプキンを使用する際に不快に感じることがあるか。（回答者：上記で布ナプキンを使用していると回答した生徒27名）

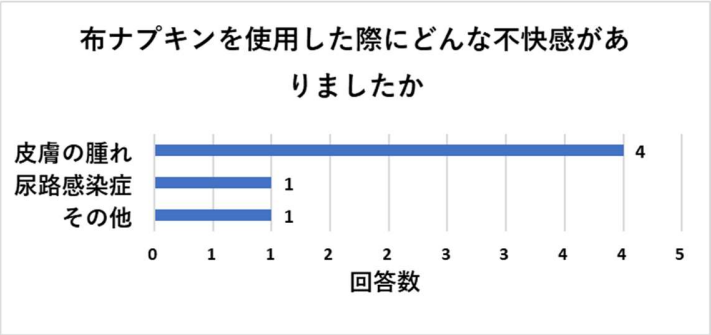


布ナプキンの使用について今まで不快に感じることがあったかという質問について、81%（22名）の回答者が、太陽

光で適切に乾燥したナプキンを使用することに不快感はないと回答した。一方19%（5名）は何かしら不快に感じることがあったと回答した。

◆ 布ナプキンについて不快に感じること

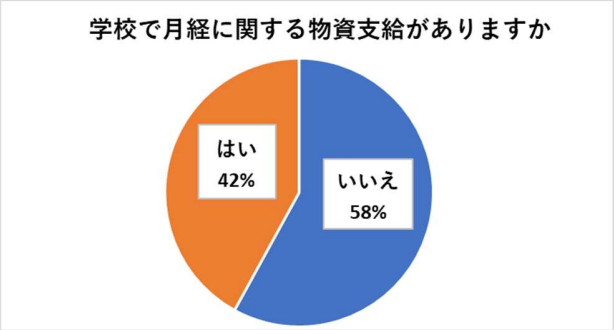
Figure 21: 布ナプキンについて何について不快に感じるか（回答者：上記で今まで不快に感じることがあったと回答した生徒5名、複数回答可）



回答者4名によると、布ナプキンを使用することで不快な理由のほとんどは皮膚荒れである。それ以外では尿路感染やその他の要因によるとの回答であった。

◆ 学校における生理用品の提供

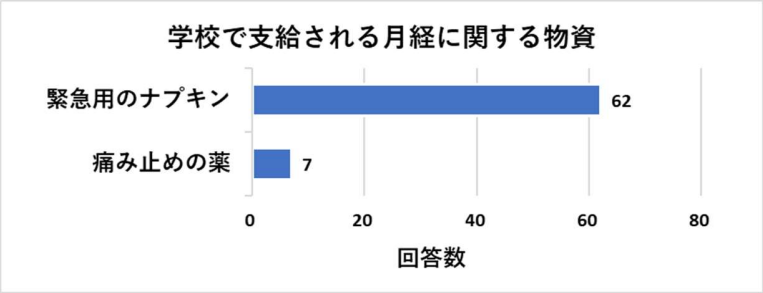
Figure 22: 学校にて月経に関して提供されるものはあるか。（回答者：153名）



58%（89名）の回答者は彼女達の学校では生理用品の提供はない、または、何も提供されたことがないと回答した。

◆ 学校で提供する生理用品

Figure 23: 学校で提供される生理用品は何か（回答者：上記ではいと回答した生徒64名、複数回答可）



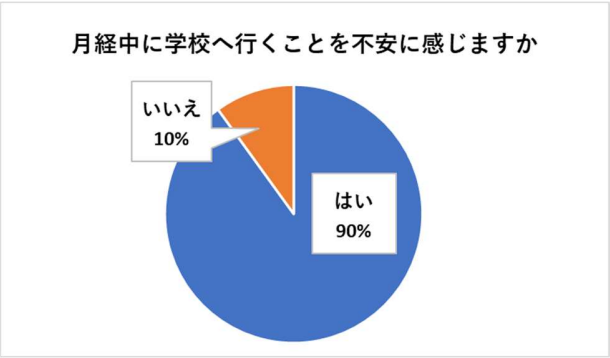
学校で生理用品を提供することは可能かどうかが、今回の調査で見えてきた主な問題である。62名（97%）の回

答者は学校で緊急用のナプキンを提供すると回答し、7名は痛み止めと回答した。

3.1.5　月経中の通学への不安

◆　月経中に学校に行くことに不安を感じるか。

Figure 24: 月経中に学校へ行くことを不安に感じるか（回答者：153名）

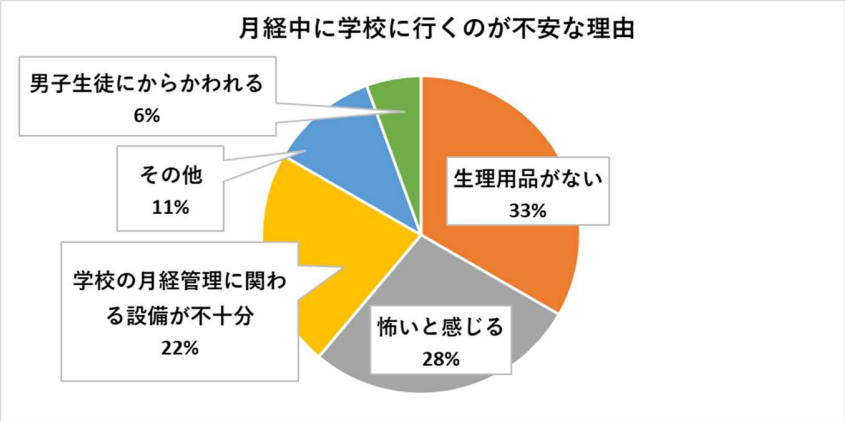


90%（137名）の回答者は月経中に学校へ行くことに不安を感じると回答した。一方で10%（16名）の回答者は、不安はないと回答した。これは月経中の女子生徒にとって学校環境が良くないためである。以下の不安に関する回答はグループディスカッションやインタビューにて聞き出したものである。

-安全に着替える場所がない
-洗浄のための水が不足している
-ナプキンが不足しているため、使用中のナプキンが血液でいっぱいになると替えがない。
-血液が制服に漏れるかもしれず、他の生徒、特に男子生徒に笑われる。

◆　月経中の通学における不安感の理由

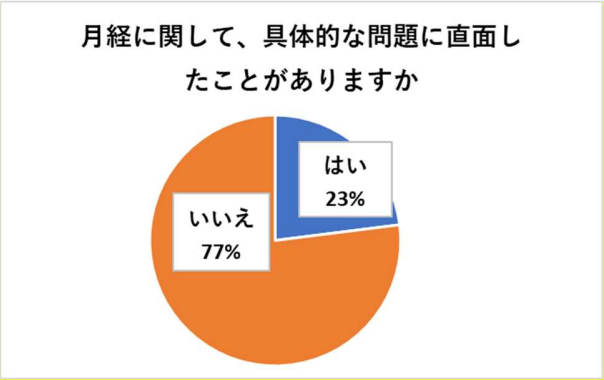
Figure 25: 月経中に学校に行くのに不安を感じる理由（上記で月経中に学校へ行くことに不安を感じると回答した生徒137名）



過半数の回答者は、学校にて使用している生理用品が良くないため、月経中に学校に行くのが怖いと回答した。特に衣類の一部などを使用しているときは、授業中に漏れてしまわないか、もしくはずれて落ちてしまわないかと心配になっている。

◆　女子生徒が直面する月経時の問題

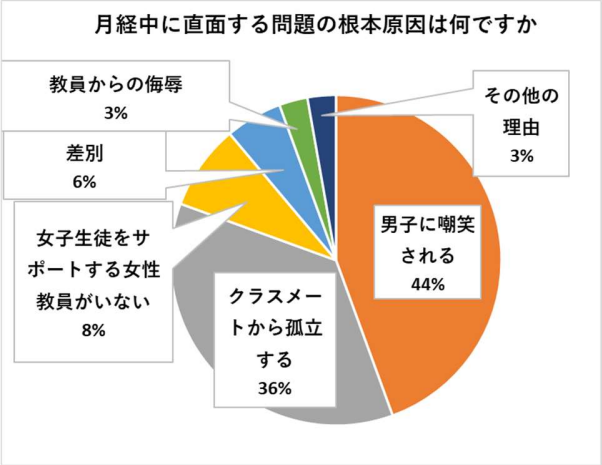
Figure 26: 月経に関して直面する問題は何か（回答者：153名）



23%（35名）の回答者は学校に洗面所や更衣室がないことや、学校だけでなく家でも生理用ナプキンが不足していることなどを問題として挙げた。学校のほとんどのトイレのドアには鍵がなく、また男子生徒や教員と共通のトイレを使用しているため、プライバシーの確保も困難である。ナプキンを交換する際に洗濯する水がなく、1日中同じナプキンを使用することになり、血液でいっぱいになると皮膚が荒れてしまう。始めて月経を迎えた女子生徒達は、汚名を着せられたり、自分の人生で初めて経験することが信じられずに隠れて泣いたりすることになってしまう。回答者の中には孤立して、食欲をなくし、精神的に不安定になった者もおり、これが学校の出席率や成績にも影響している。

◆ 月経中に直面する問題の根本原因

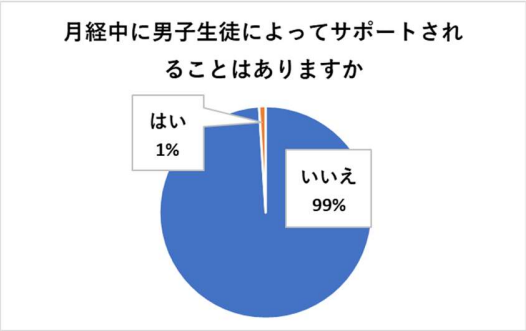
Figure 27: 月経中に直面する問題の根本原因は何か（回答者：23名、複数回答可）



44%（10名）の回答者によると、女子生徒が月経になったことを見つけた男子生徒はその女子生徒を侮辱するので、それが欠席にも影響する。36%（8名）の回答者は月経中に仲間から孤立すると回答した。注目すべき点は、先生から侮辱されたと回答した生徒がいたことである。

◆ 月経中に女子生徒をサポートする男子生徒

Figure 28: 月経中に男子生徒によってサポートされることはあるか（回答者：153名）

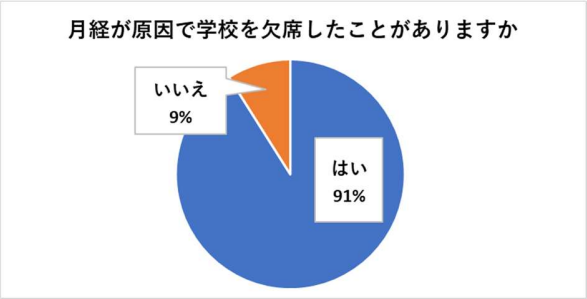


99%（150名）の回答者によると男子生徒は月経中に女子生徒をサポートすることはないと回答したが、1%（3名）は月経中に経血で制服が汚れてしまった生徒について教員あるいは保護者に報告する、ナプキンを購入するというサポートをしてくれたと回答した。たった3名の回答者しか男子からのサポートを受けたことがないということである。男子生徒に女子生徒の月経における自分たちの役割について聞くと、ほとんどの男子は分からないと回答した。

3.1.6　月経による就学率への影響

◆　月経中の学校/授業の欠席

Figure 30:　月経時の学校/授業の欠席（回答者：153名）



91%（139名）の回答者は月経中に学校を欠席すると回答し、9%（14名）は欠席しないと回答した。

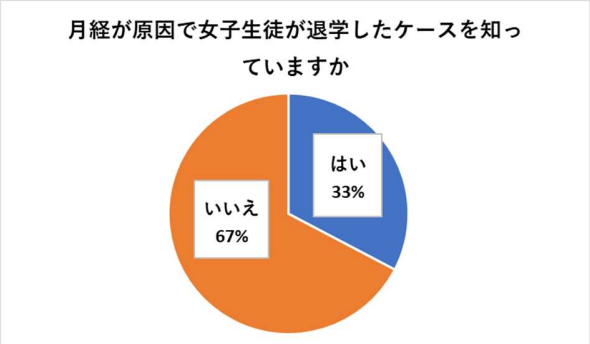
◆　月経中の学校の欠席日数

学校の欠席日数	平均3日

学校の平均欠席日数は3日である。月経痛により数日間欠席することがあり、また月経になった最初の日、もしくは数日間、毎月欠席すると回答した者がいた。欠席日数の範囲は1-6日である。

◆　月経による学校退学

Figure 31:　月経により女子生徒が学校を中退したケースがあるか（回答者：153名）



153名の回答者のうち67%（103名）は月経が原因で学校を退学したのかどうか、理由を知る機会もないため分からないと回答したが、33%（50名）は月経を理由に中退したケースを聞いたことがあると回答した。

回答者とのやりとりから分析すると、本調査で得られた情報は実際の退学者数ではなく、女子生徒の月経による退学の正確な数は分かっていないということである。それは、退学についてあまり深刻に考えられていないためである。ほとんどの人が月経時の衛生管理が女子生徒の退学に結びつくということを重要視していないことを示している。

3.1.7　その他の結果

◆　女子生徒の月経に対する悩み・意見・要望

女子生徒に月経に関する悩み・意見・要望を尋ねたところ、以下の返答があった。

- 全ての教育機関において女子生徒の更衣室を設置すべきである。月経が始まった時や対処法がわからない時などにもクラスメートの前で恥ずかしい思いをしなくて済む。
- 月経中は更なるケアと配慮が必要である。
- ナプキンは低価格でいつでも手に入れられるべきである。
- 月経中の女子生徒に対し教員は理解を深め、より配慮すべきである。
- 学校で月経時の衛生管理を実践できるよう環境の整備が必要である。
- ナプキン不足を理由に出席を恐れる女子生徒もいる。
- 月経時の衛生管理を教わる必要がある。
- トイレを男女別々にする必要がある。
- 月経時の問題に直面した際にいつでもサポートができる学校の保健士を配置する必要がある。

3.2 女子生徒に対するアンケート結果のまとめ

調査結果からほとんどの女子生徒は10歳から13歳の間に月経を経験しているにもかかわらず、その63%以上は初潮の際に月経に関する知識を持っていなかった。その他の女子生徒は家族や友人から情報を得ていた。また、多くが月経の仕組みを理解しておらず、何らかの病気、あるいは神の呪いであると考える者もいた。

およそ30%の女子生徒は月経を秘密事にしており、月経に関する問題については友人・家族内の女性とのみ共有する。これは、月経に関する問題を話題にすることが恥ずかしいと考えられているためであり、また社会の文化的信念から話題にすることに不安を感じる者もいた。

回答者の60%は月経時の衛生管理の方法を両親もしくは学校の女性教員から学んでいた。しかし全ての学校で高学年の女子生徒に対してカウンセリングやガイダンスを実施しているわけではなく、40%は月経の対処方法を知らなかったことが判明した。

調査からほとんどの女子生徒は使い捨てナプキンか布切れを使用していることが分かった。再利用可能なナプキンを使ったことがある、使用方法を知っているという女子生徒はたったの17%であった。58%の女子生徒は学校において生理用品の提供は何もないと回答しており、残りの42%は学校に備えられている緊急用のナプキンや痛み止めの存在を知っていた。しかし、場合によってナプキンの在庫が切れていることがある。

月経の衛生管理は女子生徒の状況や精神衛生に大いに影響することがわかった。90%の女子生徒は月経関連の問題を理由に登校に不安を感じると回答している。これは、布切れだけで月経をやり過ごすには不十分であり経血漏

れや、布切れが落ちてしまうことが一般的にあるからである。月経を理由に笑われたりからかわれたりすることで更に不安は増す。そのため多くの生徒は月経中に孤独を感じ、また自ら他の生徒から距離を置いてしまう。現在直面している月経時の衛生管理の課題に取り組むためには洗面所や更衣室、水環境の改善及び新設が早急に必要であると女子生徒は回答した。

90%以上の女子生徒が月経を理由に学校を欠席したことがあると報告しており、30%以上が月経に関連した問題を理由に同級生が退学したと聞いたことがあると答えた。教員や生徒が容易に女子生徒の退学理由を知ることができないことからも、実際の割合はもっと高いと考えられる。